

第 1 1 回重点分野推進戦略専門調査会での主な意見

1 分野別の重視すべき領域・事項について

- 分野間及び全体を見渡して連関マップを整理すべき。
- 領域等で、平成 1 4 年度の重点事項と 1 5 年度に重点として打ち出す事項の関係を明確にすべき。1 4 年度からの継続施策への資源投入と 1 5 年度新規施策への資源投入をどの程度にすべきかの検討も必要。
- 重要領域をあまり細かくすると抜け落ちるものが出てくることに留意すべき。
- 基本計画にある安全・安心という観点に立って、重視すべき領域を織り込むべき。
- ポストシリコンとは、シリコンの次にどんなアイデアを出すかということであり、必ずしも明確に定義する必要はない。
- ポストシリコンとしての材料を考える場合、どういう動作原理のデバイスを考えるかが重要。
- ポストシリコンとして窒化ガリウムが重要。
- 製造業が関わる問題として考える場合、材料を分子レベルで開発すると高機能材料が出てくる可能性が大きい。
- 異分野の融合を推進するシステムづくりの重要性を明確に打ち出すべき。
- 異分野の融合領域は重要だが、それを実現するには、例えば医学部と工学部が一体で議論する場をつくるなど、システムの改革が必要。
- 融合できる領域と融合したものを活用する領域とは区別する必要がある。
- 重視すべき領域・事項について、どのように成果に結びつけていくかという仕組みを、科学技術システム改革専門調査会とでカップリングして考えていくべき。

- 「重点化」は、分野の細分化というアプローチによる場合と目標を設定しシナリオに従ってどのような研究開発を行うかというアプローチによる場合とでは、異なった結果となる可能性が高い。アプローチの仕方が重要。
- 科学技術の進展による 2010 年時点の国民の日常生活、産業界の変貌を国民に示した上で、どのような技術が貢献しているかを示すことが重要。

2 経済活性化の観点について

- 経済活性化プロジェクトを選択する指標が必要。
- 時期と目標を明確に定めて、その目標を実現するためのシナリオに従って研究開発を進めていくことが必要。
- 実用化のためには、研究開発と同時にシステム改革を図ることが必須。
- 実用化研究に国が携わる妥当性を説明することが必要。
- 研究開発プロジェクトの検討とともに、予算確保の方策についても意識をしておくことが必要。
- 設備費だけでなく研究費を確保することが必要。

3 基礎研究の推進について

- 外国の 2 番手でない基礎研究について、成果を早急にキャッチし応用研究につなげていくことが必要。
- 明確に目標が見えるもののみでなく、先が見えない基礎研究も必要。
- 学術研究の重要性をもっと国民に知ってもらう努力が必要。

4 科学技術関係人材の育成・確保等について

- 重要領域毎の研究者数を把握すべき。

5 その他

- 膨大な「知」を構造化して、多数が活用できるようにするための「知の創造」を行うべき。
- 科学技術の成果を国民により多く還元するためには、社会システムの改革が必要。
- 研究者が自らの成果を他者に利用されやすいようにまとめることが必要。
- 重要事項の中には、市場を通じて具体化していくものと、政府の公共政策を通じて実施していくものがある。総合科学技術会議は、科学技術の立場から議論するが、政策的なプロセスそのものの議論も必要。